

発達心理学会公開シンポジウム

心理職の国家資格の展望と課題

指定討論: 下山晴彦

日本心理臨床学会副理事長
日本心理学諸学会連合理事

国家資格化は、難しいのか？

• あ行の国家資格

足場の組立等作業主任者／ アプリケーションエンジニア／
アマチュア無線技士／ あん摩マッサージ師／ 医師試験／
一般計量士／ 移動式クレーン運転士／ 運行管理者／
運行管理者(航空機)／ 衛生工学衛生管理者／衛生管理者
／液化石油ガス整備士 / 栄養士／ 園芸装飾技士／
エックス線作業主任者／ 応用情報技術者／
エンベッドシステムスペシャリスト

心理学に関連する分裂

- 心理療法の各学派の分裂
- 臨床(実践)と研究(科学)の分裂
- 臨床心理学と学術心理学との分裂
- 現場と大学の分裂
- 心理職と他の専門職の分裂

これは、異常な事態なのか、それとも統合に向けての一過程なのか？

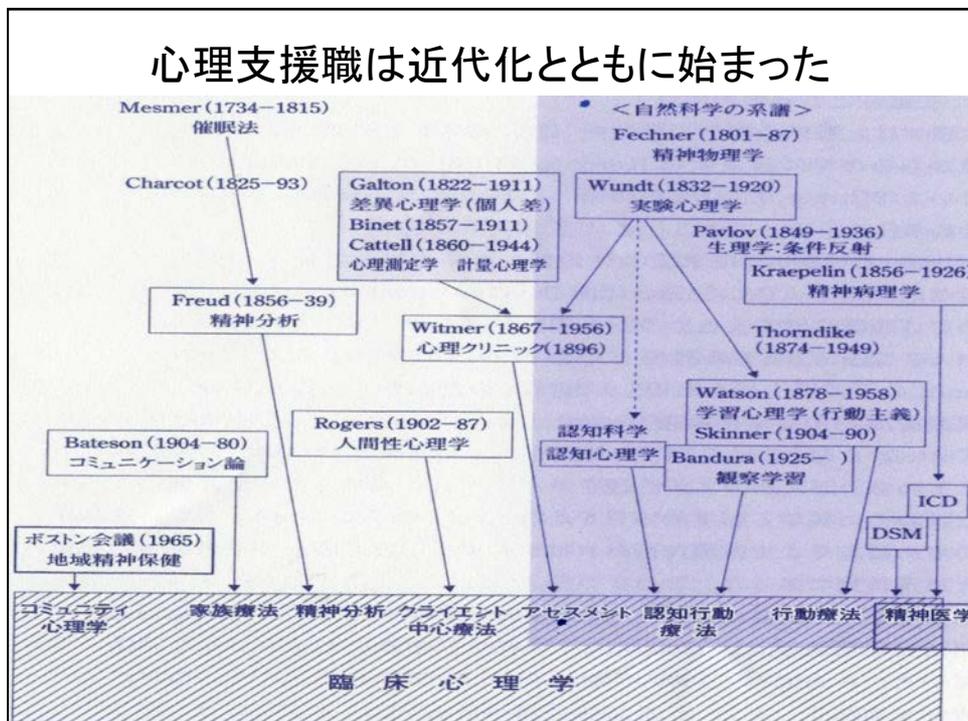
なぜ、心理支援職の国家資格化は難しい

- どうして、心理職としてまとまらないのか？
- 心理支援職とは、いったい何者？
- なぜ、そんな職業ができたのか？
- まとめるためには何が必要か？
- 今後何が必要か？

心理職は生まれも育ちも異なっていた

- 社会の近代化によって、共同体が崩れ、個人主義となり、人々は自己の心のコントロールを求められるようになった。
- その心のコントロールを研究し、支援するための専門家が、バラバラと生まれた。しかも、個性の強い創設者によって・・・
- 2つの系譜
 伝統的な・土俗的な方法を活用・・・精神分析⇒心理療法
 近代的な・科学的な方法を開発・・・行動主義⇒心理学

心理支援職は近代化とともに始まった



心理学に関連するズレをつなぐ

- 第2次世界大戦後 戦争神経症の治療として、有資格の心理専門職が必要となる。
- 学派(各家元?)の統合の必要性 = 日本の現段階
- Scientist-Practitioner Model (1949) * 同床異夢
- Eysenck(1952)「心理療法って、本当に役立っているの?」
- 効果研究⇒エビデンスベースアプローチ

⇒有効性を基準とする心理療法の序列化
⇒研究と実践、科学と臨床の統合

誰が主人公なのか⇒他職種協働へ

- 心理的問題の顕在化⇒社会的ニーズの高まり

<市民社会の成熟> 主人公はユーザーである市民

×治す専門職 → 直される人々

↓

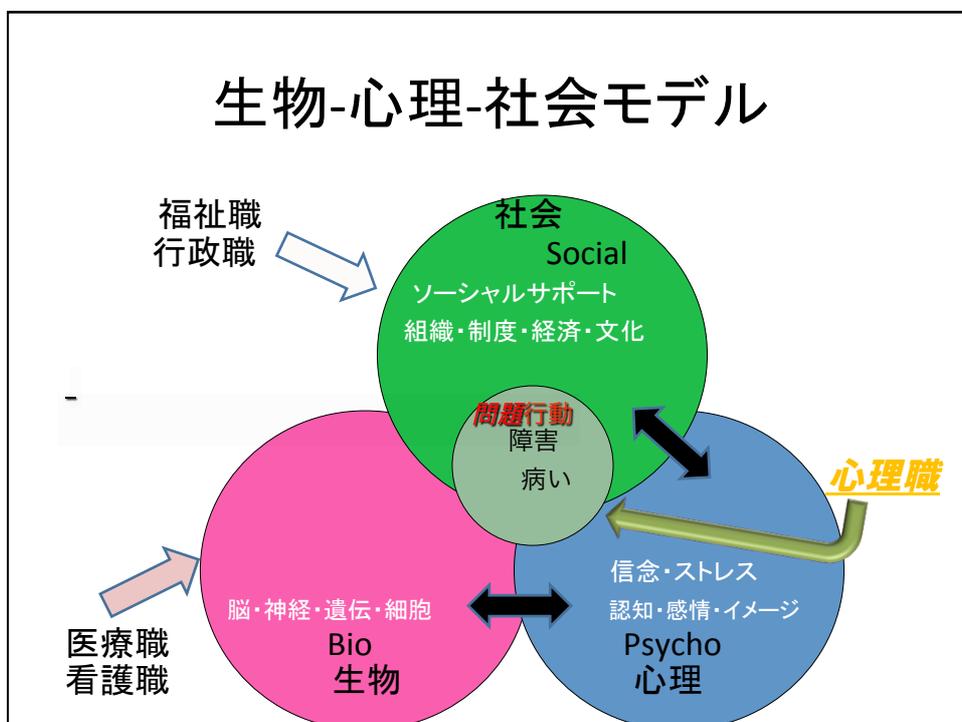
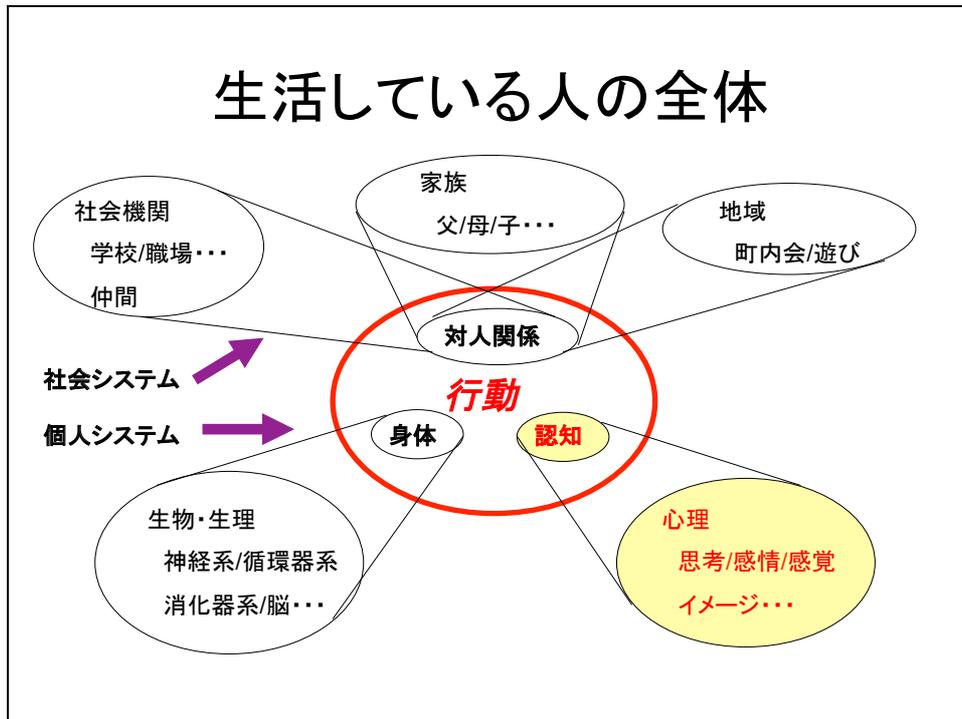
○治ろうとする人 ← それを支援する専門職

×専門職は、それぞれの専門の内に住む

↓

○人は、生活をしている

→生活する人の問題解決支援の専門家へ



課題

- Scientist- Practitioner Model
- エビデンスベーストアプローチ
- 生物-心理-社会モデル
- 多職種協働モデル

上記を踏まえた新しい専門職モデルの形成と、それに基づくカリキュラム、養成システムの構築

※領域別の専門職モデル、専門職の体系化